築百二十年 古民家『聴福庵（ききふくあん）』

第77号 ミミマモルジュメールマガジン

【夏のしつらえ】

むかしの日本の先人たちは、夏の厳しい蒸し暑さをしのぐために様々な工夫をしてきました。
例えば、身近であれば北から南に風が抜ける通り庭に打ち水をして調整したり、風鈴で音を鳴らし風を感じたり、桶に水を入れてスイカを冷やしたり、金魚を観照したり、団扇も夏の浴衣の色や模様も、その「心持の方も工夫」して涼をとってきました。

今のようにエアコンや扇風機のなかった時代、家も衣服のように衣替えし、障子戸や襖を、風通しをよくした「簾戸」に置き換えて工夫してきました。この「簾戸」（すど）は呼び名が多く夏戸、夏障子、御簾戸、葦戸でもよく、すだれ（萩、葦、竹ひご）をはめ込んだ建具のことを言います。

葦の隙間から漏れる木漏れ日のような日陰に部屋の中が柔らかくなり空間がうっとりして、
それだけで涼が流れます。

2018 年 7 月 16 日「夏のしつらえ～清々しい涼しさ～」かんながらブログより

左：ヨシ戸（ヨシと呼ばれる灯心草が使われ、密な構造ですが空気・光は自由に流れます。
右上：バケツで冷やしたスイカ　右下：耳から涼を感じる風鈴

『聴福庵』3 年目のあゆみ

福岡県飯塚市にある古民家『聴福庵』は、2018 年 4 月で 3 年目を迎えました。

2018 年
4 月 1 日　呼吸大学宮本さん、田口さん来庵
4 月 8 日　２階 秋月和紙の障子に張り替え

5 月 2 日　厨房壁面炭貼り
5 月 3 日　中庭剪定
5 月 19 日　２階窓枠弁柄で塗装

6 月 25 日　雨樋取り換え銅板へ

7 月 2 日　網代敷き、煤竹水拭き（天井作業準備）、台風対策
7 月 17 日　離れ側溝工事
7 月 30 日　窓枠交換工事
7 月 31 日　窓枠交換工事

8 月 10 日　外庭竜のひげ移植、玉砂利拾い、離れ犬走りづくり
８月 11 日　炭貼り
８月 12 日　盂蘭盆会

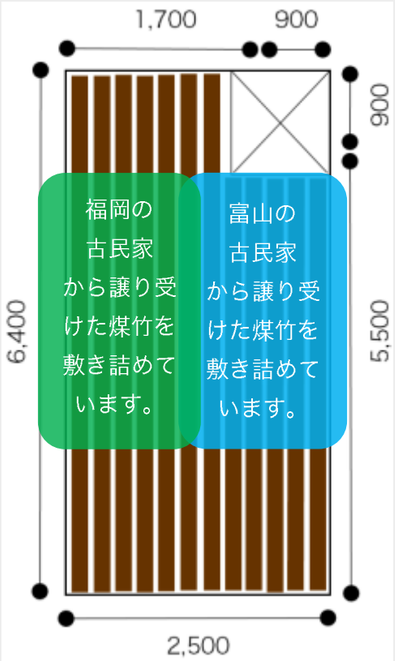
※2018 年 8 月 20 日現在

【煤竹天井】

2017 年 6 月 22 日に始まった煤竹天井プロジェクトは、約 1 年掛かりで天井全てに煤竹を敷き詰めました。富山にある築 200 年の古民家や、福岡県柳川にある古民家からも煤竹を譲り受け、『聴福庵』の厨房の天井に煤竹を敷き詰めました。

下図は煤竹を敷き詰めた天井の広さを表しています。右側は築 200 年の古民家から譲って頂いた富山の煤竹。左側は福岡県柳川の古民家から、5m 程の長い煤竹を敷き詰め、同じ煤竹でも見比べると模様も異なります。

●厨房の天井の広さ



以前の天井は石膏ボードが使われ、無機質な雰囲気でしたが、元の姿を思い出せないくらい、今は煤竹の一本一本が天井を埋め尽くしています。磨くほど輝きを放つ竹を眺めていると、「本当に 200 年前のもの？」と自分の目を疑いたくなる、そんなことを 1 年前思いました。

そして今は、時間が生み出す美しさや日本人が大切に守って来た暮らしの智慧にもまた美しさを感じ、ひと際輝いて見えます。煤で手を黒くしながらの作業でしたが、心は晴れやかです。

天井作業をしていると目線は常に上を向き、目線を高いことで気づくこともたくさんあります。

子どもたちは、大人に比べると見上げていることが多いから、たくさんのものを発見しているのかもしれない、そんなことも煤竹天井を通して感じました。

2016 年 4 月当初の厨房

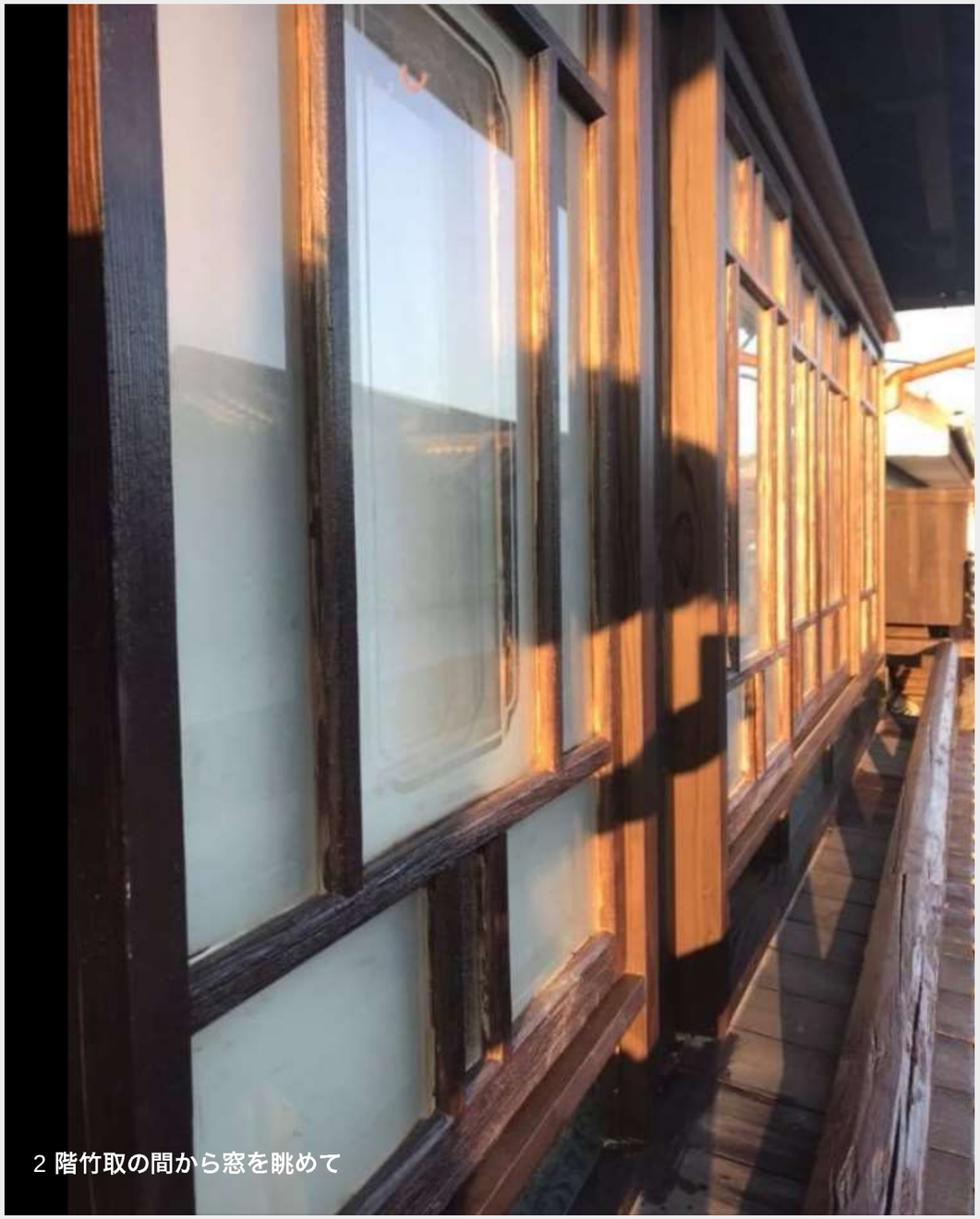
2017 年 6 月ダクト塗装

上：厨房の天井全体に敷き詰めた「煤竹」

左：2017 年 6 月 天井の石膏ボードをハンマーを使い叩き割る

右中央：煤竹同士を紐で結わいていきます　　右下：石膏ボードの残骸

【窓取り換え工事】



2 階竹取の間から窓を眺めて

2018 年 7 月 窓取り換え工事
九州地方を襲った 2 度の豪雨のため、工事の予定をずらして実施

2016 年 6 月　『聴福庵』当初

2018 年 8 月　窓取り換え工事後

【雨樋（あまどい)】

今は、まだ古民家に銅雨樋が馴染まず光沢が出てピカピカに輝いていて違和感がありますが経年変化をして赤褐色、褐色、暗褐色、黒褐色、そして緑青色に変わっていく様子を年々楽しめる豊かさがあります。

この変化の過程は数か月で赤褐色、数年で褐色、その後は数十年が暗、黒褐色、そして竟には緑青色になるという具合です。

あと何年、生きられるかわかりませんが自分の次の代になるまで楽しめる銅の変化を継承し体験できることは有難いことです。

2018 年 6 月 26 日「刻の記憶」かんながらブログより

【犬走り】

聴福庵の離れの雨落ちのところに砂利を敷き風情のある犬走りができました。この雨落ちは軒先の真下に雨だれが落ちる部分のことをいいます。

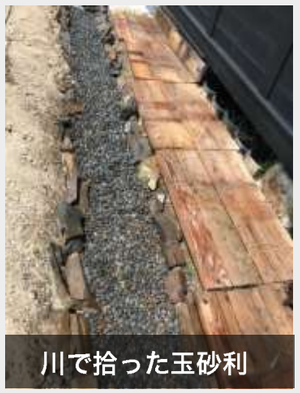
この犬走りとは、雨による汚れが建物に跳ね返ったり雨水が建物に浸透しないようにすることをいいます。諸説ありますがこの犬走りは建築用語でちょうど「犬が通れるくらいの幅」ということから「犬走り」といわれたり、施工したときに犬が歩いてしまい犬の足跡が残ることがよくあるといわれたりしています。

むかしからこの犬走りを設けるのは、家を雨から守るためです。雨が降ると、雨が瓦から軒下の土に落ちるとそれが跳ねては壁を汚します。またその雨が木材に長期的にかかると腐敗したり塗装が剥げたりします。

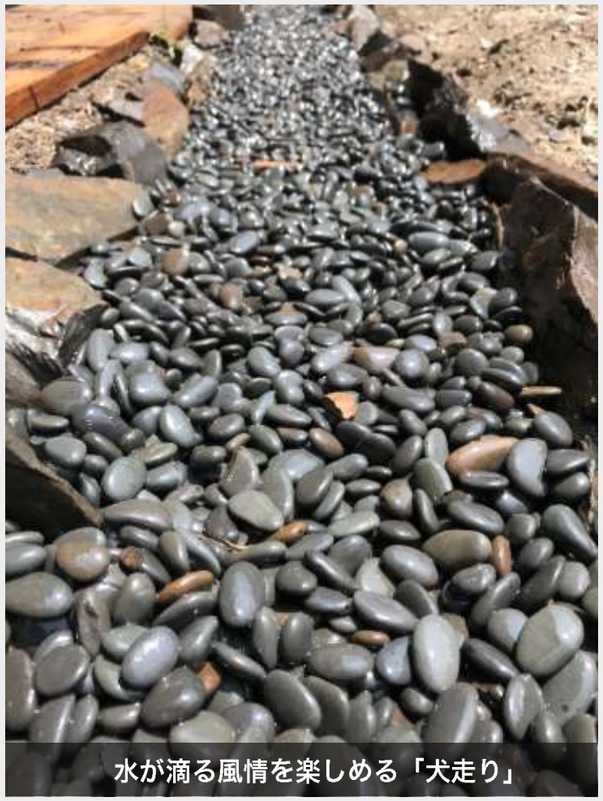
またここに玉砂利を敷くことで音による防犯などの役目があります。夜中に砂利を通ると音によって周囲に人の気配があるのが伝わります。今回は、黒玉砂利を敷きましたが玉砂利は土埃もたたず、水はけもよく、雑草も抑制し、清涼感があります。

2018 年 8 月 12 日「雨と家〜犬走り〜」かんながらブログより

『聴福庵』の離れ



川で拾った玉砂利



水が滴る風情を楽しめる「犬走り」

【離れ側溝工事】

離れ入り口側

裏出入口

離れお寺側

【中庭側屋根に苔養生】

右：苔養生後

左：苔養生前

【竜のひげ移植】

聴福庵にタマリュウ（玉竜）を植えました。　（中略）　タマリュウ（玉竜）は、葉も綺麗ですが花を咲かせ美しい青い実をつけることで知られます。そして古くから縁起のよい植物として重宝されてきたといいます。薬としても知られており、鬚のような根のところどころにある小さなイモのような部分は、麦門冬という生薬となり、強壮、咳止めに効果があるとされています。

また本州以南に自生するユリ科の常緑多年草であり、以前近くの山の中で採取したことがあります。本来は、葉が長いものが多いのですがこのタマリュウは園芸用に葉が短くなるように改良されてきたものです。

松と同様に冬にも枯れずに青々と光る葉が美しいと感じたのかもしれません。また夏の日照りにも強く、繁殖も強いこともあるのでしょう。むかしから日本の先祖たちは、身近に縁起が良いものを置き、その福に肖ることで様々な福を取り入れてきました。

福はもともとはすべて自然の中にあるものでその自然の福が豊かであるようにと願い祈り続けて子孫を繁栄させてきたのかもしれません。禍転じて福にするという諺にあるように、私たちは常に福を意識して心の持ち方や生き方を学び続けていくのかもしれません。

このタマリュウの花言葉は「変わらぬ思い」「深い心」「不変の心」。いつまでも初心を忘れずに子どもたちのために復古起新するぞという決意と共に聴福庵を見守っていきたいと思います。

2018 年 8 月 11 日「変わらぬ思い」かんながらブログより

Before

After

竜のひげ

【聴福庵を通して思うこと】

早いもので『聴福庵』は 3 年目を迎えました。

修繕も進み、2016 年 4 月当初の写真と見比べると、随分とその変化を感じます。

時系列で取り組んだ内容を記録する傍ら、古民家を通して子どもたちに伝えていきたいこと

として私なりに調べごとを行っています。

本誌 74 号でご紹介させて頂いた「妖怪特集」もその一例ですが、「畏怖」という体験も

子どもたちにとって大切な学びだと思うのです。

そして、今後は聴福庵にある「縁起物」や、動物の名前が付く道具などの切り口から古民家を

深めていきたいと思っています。『聴福庵』を訪れるたびに新たな発見があり、

柱を磨くのと同じように自分自身の視点を磨かれているようで、この感覚にわくわくする

ものを感じます。

自分なりの視点でも古民家について深め、今後も『聴福庵』での学びを発信していきたいと

思います。

2018 年 8 月 20 日　株式会社カグヤ　奥山卓矢

網代（あじろ）を敷いた夏の「聴福庵」

caguya
〒161-0023
東京都新宿区西新宿 3-2-11　新宿三井ビルディング 2 号館 10 階
Tel:03-5909-7155
毎週月曜日に配信しています。
ミママルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ　奥山卓矢

ミママルジュメールマガジン

メールマガジンのご登録は、
ＱＲコードからお願いします。